

茨城 地質観光マップ ⑧日立

1 日鉱記念館

天正19年(1591年)から記録が残っている、日立鉱山の操業の歴史と、当時の鉱山町の人々の生活の様子に関する資料が展示されています。模擬坑では実物大の人形や機械があり、採掘の様子をリアルに見ることができます。

詳しくは



2 旧共楽館

東京の歌舞伎座を模して大正6年に建てられた「共楽館」は、日立鉱山の従業員とその家族、地域住民のための娯楽場でした。昭和42年に市に寄贈されるまで、歌舞伎や歌謡ショー、映画会などが催され、常に人々の笑いや感動が溢れていました。

さらに、西洋技術と日本の木造建築様式が融合したこの建物は、国の有形文化財に登録され、現在は武道館となっています。

詳しくは



3 日本最古の地層

このポイントは川を登るのでかなり険しい道になります。十分に準備して行ってみましょう！

ここでは日本に存在する最古の地層である、約5億年前のカンブリア紀の層を見ることができます。川を登っていく際に、左側が約5億年前のもの、右側が約3億5千万年前のものになります。この2つの層はすぐ隣り合わせになっていますが、その間は1億年以上の時間間隔が空いています。それはなぜでしょうか？

詳しいアクセス、成り立ちは裏面へ

4 鵜の岬

伊師浜海岸から南に約3kmに渡って、波に削られてできた険しい海食崖が続きます。この海食崖には休息のため、外敵の少ない場所を求め、市の鳥である「ウミウ」が渡来します。「鵜の岬」には、日本で唯一のウミウの捕獲場があり、ここで捕獲されたウミウが全国の鵜飼いで活躍しています。

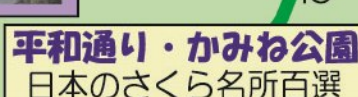
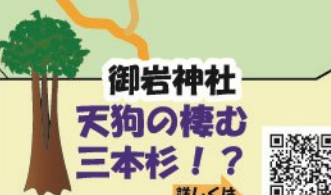
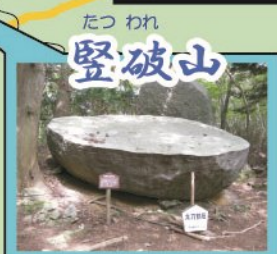
詳しくは



日立市は日本でも有数の工業都市として知られています。

その発展を支えていたのは、四大銅山の1つであった「日立鉱山」の繁栄と、太古から続くこの地域の「地質」でした。

ポイント1・2では、日立鉱山の歴史や、鉱山町での人々の暮らし・文化に触れていきます。続くポイント3では、日本で最も古い地層を観察し、ポイント4では、全国でここにしかないウミウの捕獲場を巡ります。このルートを通して、過去から現在に至る『地質と人々の共生』について探ってみましょう！



豎破山は今から1億~1億5千万年前(白亜紀前期)にできた花崗岩から成る山です。常陸国風土記にも記されているこの山には、数多くの奇石とそれにまつわる伝説が残っています。最も有名な「太刀割石」は、その昔、八幡太郎源義家が、夢に現れた神に授けられた太刀を大岩に振り下ろしてできたと言われる、真っ二つに割れた大きな奇岩です。



日立鉱山の歴史

① 日立鉱山のはじまり

明治38年、久原房之助が当時経営不振で苦しんでいた茨城県の赤沢銅山を買収、改称し、「日立鉱山」として開業しました。そこからわずか数年で日本四大銅山の1つに数えられるまでに成長し、地元住民に繁栄をもたらしました。



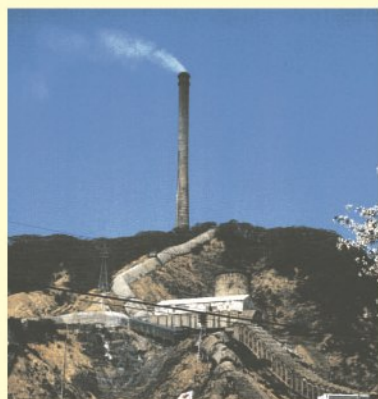
② 煙害の発生と煙突

しかし一方で、銅の製錬により発生した亜硫酸ガスにより、たばこや稲作などが大きな被害を受けました。その解決策として煙突が建設されました。当時の煙害対策の主流は、煙突をできるだけ低くし、途中で空気と混ぜて薄めてから煙を排出するというものでした。しかしその考えで作られた2つの煙突は失敗し、久原はより高い煙突を建てて上空で拡散させることを考え、大正3年に大煙突を建造しました。この大煙突は見事煙害を減らし、環境負荷が少ない自溶炉が稼働を始める昭和47年まで、煙害対策に重要な役割を果たしました。

③ 閉山と煙突の倒壊

昭和56年、鉱石量の減少を受け、日立鉱山は閉山しました。久原が操業を始めて76年後のことでした。

煙害対策の金字塔であった大煙突は、平成5年に約2/3が崩壊してしまいましたが、翌年に上部を修復され高さ54mの煙突として、今も日立鉱山と人々との共生の象徴となつて(写真提供:日鉱記念館)ています。



倒壊前の大煙突

(写真提供:日鉱記念館)



詳しくは

日立市はなぜ桜が有名?

毎年日立に春の訪れを告げる大島桜ですが、実は日立鉱山と関係があるのです。大正4年に煙害対策として大煙突が稼働開始したのち、荒廃した山に亜硫酸ガスに強い大島桜260万本が昭和の始めにかけて植えられました。こうして日立市と桜の歴史が始まり、市の花としてイメージマークにも取り入れられています。



日立市のイメージマーク

日立の変成岩



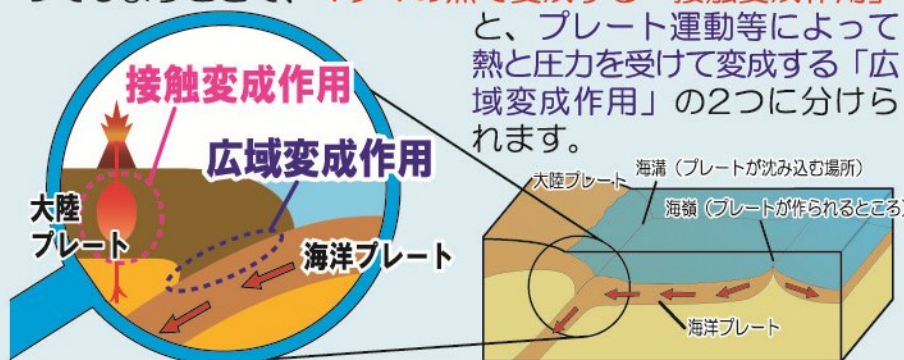
ポイント3は沢を上流へ登るため足場が悪いので、注意して行ってみましょう！県道10号から車で5分。その後徒歩10分です。



↑不動滝

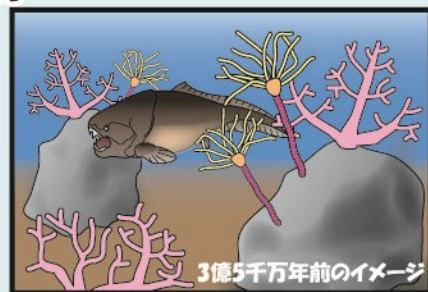
変成作用とは

ポイント3周辺の地層は変成作用というものを受けています。変成作用というのは、岩が高温高压の所で異なる岩になってしまうことで、**マグマの熱で変成する「接触変成作用」**と、**プレート運動等によって熱と圧力を受けて変成する「広域変成作用」**の2つに分けられます。



1億年以上の時間間隔

ポイント3で見られる地層は約5億年前に、現在の中国になる大陸の縁(海底)に位置していました。その後この場所はプレート運動などにより約1億年間陸地となっていました。陸地であるときは何も堆積しないので1億年以上もの時間間隔が生まれたのです。



そして約3億5千万年前、陸の時代が終わり再びこの場所は海に沈みます。そのため日立の南部で見られる石灰岩ではウミユリやサンゴの化石などを見ることができます。



詳しくは

各ポイントの詳細な説明を携帯サイトで紹介しています。QRコードの読み取り機能のある携帯電話で読み取って接続してみてください！

以下の方々のご後援、ご協力を頂いております。(順不同・敬称略)

- 後援 日立市 (<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/index.html>)
 日立市観光協会 (<http://www.mito.ne.jp/~h-kanko/>)
 日立商工会議所 (<http://www.hitachicci.or.jp/>)
 日立市教育委員会 (<http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/subtop.html?id=8>)
 グリーンふるさと振興機構 (<http://www.greenful.jp/>)
 取材協力 新日鉱ホールディングス (<http://www.shinnikko-hd.co.jp/>)

このまっぷに関するお問い合わせは、地質情報活用プロジェクトまで！



⑧ 日立

日立発展の原点は...

地質にありました！



製作: 茨城大学 地質情報活用プロジェクト



お問い合わせ ▶ geo_tourism@hotmail.co.jp
 ホームページ ▶ <http://sites.google.com/site/geonavipj/>
 茨城大学の学生によるプロジェクトです

協力: 株式会社サイボックステクノロジー

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-19-9 VCTビル3F